

(社説以外)

掲載日	新聞名	内 容	中医協のあり方に関する論点
4月16日	日経新聞	<p>(見出し)医療改革に影響必至 診療報酬汚職 中医協見直しも</p> <p>(前略)</p> <p>医療費決定の透明度向上へ向けた見直しは避けられない。</p> <p>(中略)</p> <p>公開審議は各委員がそれぞれ代表する団体の主張を述べ合うだけの「建前の議論」になりがち。現実の交渉は表舞台とは別に非公開で行うことが慣例化している。裏の交渉を取り仕切るのは厚労省。同省が妥協案を作って両側委員に根回しし、了解を取り付ける形が一般的だ。</p> <p>(中略)</p> <p>全体の改定率は中医協の表舞台でも一応審議する一方、個別の診療報酬点数の見直しは中医協で時間をかけて議論することすらあまりない。約二千ページと電話帳並みに分厚く難解な診療報酬点数表を中医協で了承するだけだ。なぜその価格になるかという科学的分析は公表されず、全体の改定率以上に利害の絡む関係団体の政治力で決まる側面が強いとされる。</p> <p>(中略)</p> <p>国民の不信を払しょくするには、専門家以外は理解できない診療報酬制度そのものを抜本的に見直し、国民の目にも分かりやすいシステムに改める必要があるとの見方が多い。</p>	<p>透明度向上</p> <p>診療報酬制度そのものを抜本的に見直し、国民の目にも分かりやすいシステムに改める必要</p>

掲載日	新聞名	内 容	中医協のあり方に関する論点
4月16日	読売新聞 (解説)	<p>(見出し)診療報酬の決定権 中医協捜査にメス 政界への資金の流れ解明焦点</p> <p>(前略)</p> <p>診療科目ごとの報酬額など、細部の議論となると、裏交渉で”相場”が決まることは珍しくない。中医協の主要メンバーが「勉強会」と称して、ホテルの一室などで”落としどころ”を探るパターンが多いという。公開が前提の審議会にもかかわらず、実態は密室での取引が横行していたことが、事件の背景にある。</p> <p>(中略)</p> <p>ある厚労省幹部は、「硬直化した委員構成が、今回の事件の大きな要因」とした上で、「医療制度の専門家をメンバーに入れるような柔軟性が必要だ」と指摘している。</p>	<p>実態は密室の取引が横行</p> <p>硬直化した委員構成が事件の要因</p>
4月22日	朝日新聞	<p>(見出し)時時刻刻 狙われた10年委員 日歯汚職中医協の下村容疑者 医療側への防波堤</p> <p>医師の報酬を左右する診療報酬を審議する「中央社会保険医療協議会」(中医協)を舞台とした汚職事件。その医員を永年勤めた厚生省OBの下村健容疑者が、なぜ日本歯科医師会(日歯)に狙われたのか。10年近く委員のポストに座り続けたことを問題視する声もある。同時に下村元委員の威光があったからこそ、医療費抑制の時代を乗り切れたとの指摘もある。</p> <p>(中略)日歯側がわいろを贈ったとされる01年度に開催された中医協。議事録から下村元委員の発言した行数を拾うと、資料説明などをする厚労省側の発言などを除き約47%に及ぶ。20人いる委員の中ではずば抜けて多い。(中略)9年半。異例ともいえる長期の中医協委員としての在籍期間は、ある意味で必然だった。その意向に目をつけ、接待などで診療報酬を動かそうとしたのが日歯だった。</p> <p>(中略)任期2年の中医協委員を5期重ねた下村元委員の長い在任期間を、問題視する声がある。1人の発言力が突出していたといわれる。(中略)01年度に開かれた26回の中医協のうち、4人の公益委員の発言は議事進行上の言葉を除くと16回でしかなかった。議事録で見ると、議論の2.5%でしかない。</p> <p>(中略)診療報酬改定の仕組みが分かりづらい。中医協とは別に水面下で交渉が進むなど不透明だ、とも指摘されている。</p>	<p>下村元委員の長い在任期間を、問題視する声がある</p> <p>1人の発言力が突出していた</p>

掲載日	新聞名	内 容	中医協のあり方に関する論点
4月22日	産経新聞	<p>(見出し)“癒着”が生んだ闇構図</p> <p>(前略)</p> <p>中医協は医師や歯科医師などの診療側のほか、保険料を実際に払う組合側など計20人で構成される。坂口厚労相への答申は「全会一致」が原則のため、常に対立意見の調整が迫られる。</p> <p>日歯関係者は、「公開審議は各代表が建前を述べるだけ。いかに妥協案を根回しするかが重要だった。」という。なれ合い体質がわいる攻勢のつけ入るすきを与えたとの指摘は根強い。</p> <p>(中略)</p> <p>早期の実績作りを目指し、根回しがモノをいうとされる中医協の実態に注目した。</p> <p>当時、中医協内での日歯は「日本医師会に比べ、やや見下された存在」(元委員)だった。発言力拡大のため、委員の中でも大物の下村容疑者と元連合副会長の加藤勝敏容疑者に近づいたと見られる。</p>	<p>常に対立意見の調整</p> <p>妥協案の根回しが重要</p> <p>なれ合い体質が事件の一因</p>
4月25日	産経新聞	<p>(見出し)中医協汚職事件の背景 医科との格差是正／開業歯科医急増で経営難</p> <p>(前略)</p> <p>公開審議は表向きで、実際は裏折衝で作業が進められることについて、厚労省幹部は「そうでもしないと、違憲が違う同士が何時間話し合っても決まらない」と話す。</p> <p>批判を受けて厚労省は、公益委員数を増やすことを検討しているが、「専門知識のない委員がいくら増えても変わらない」と指摘する声もある。</p>	<p>委員数が増えても変わらないという声がある。</p>
4月26日	東京新聞	<p>(見出し)中医協医療費山分けの場に？改革むしばむ癒着</p> <p>全面公開される中医協での議論。だが、それは表の姿。「実はより深い根回しが行われるようになった」と厚労省の元幹部は証言する。</p> <p>専門家にしか理解できない診療報酬の複雑さも透明化を妨げる。「始めは明確な尺度があったが、四十年たって複雑怪奇になった」。坂口厚労相は、中医協の現状を、「制度疲労」と表現した。診療側委員の大半が、日本医師会と日歯の代表で占められていることを疑問視する声も強い。</p> <p>年間三十兆円とされる医療費。その配分を決める中医協の実情は「山賊たちが宝を分け合ったいるだけ。時代の変化についていけない。」と厚労省の幹部は評する。政治力やわいろで「山分けシステム」にされてしまった中医協をどう健全化させるのか。改革は緒についたばかりだ。</p>	<p>診療報酬が複雑</p>

掲載日	新聞名	内 容	中医協のあり方に関する論点
5月5日	日経新聞	<p>(見出し)診療報酬の複雑さ 汚職の温床に (前略) 診療報酬制度の複雑さが、中医協委員を標的とした汚職事件の温床になったという指摘は根強い。(中略) 個別点数の設定は、健康保険法で中医協に諮問し答申を受けることが必要とされており、中医協の専権事項。全体の改定率という大枠を決めてから個別の調整を行うものの、個別点数は約一万四千項目にも上り、複雑さを極める。 国会での集中審議で厚労省幹部も「個別点数は複雑多岐にわたり、すべてを中医協の場で協議できない。委員には事前に資料に目を通してもらっている」と答弁。個別点数の適否については事前の根回しで決まってい実態を暗に認めた形で、この仕組みが委員への贈賄工作のつけ入るすきを与えたとの指摘は少なくない。</p>	<p>点数が複雑で、実際は個別点数は事前の根回しで決まる。この複雑さが問題。</p>
5月7日	読売新聞	<p>(見出し)連合の根幹直撃 中医協汚職で前副会長起訴 サラリーマン全体への裏切り (前略) 労組役員は春闘などで要求提出の段階から落とし所を探り始める。組織内の意見を集約したり、経営側の間食を求めたりするため、経営側と非公式の場で意見交換することもあるだろう。 今回の事件は、そうした不明朗な非公式折衝につきものの落とし穴にはまったとも言える。連合では「審議会に委員を送り込む以上、事務局のバックアップ体制の整備も急ぎたい。審議会にかかわる職務に関し、指針作りも計画している。」と話している。 連合代表で各種審議会の委員に名を連ねるのは、すべてのサラリーマンの代弁者としての発言を期待されているためだ。それを自覚し直さない限り、連合の信頼回復はない。</p>	<p>連合代表はサラリーマンの代弁者としての発言を期待されている。</p>